

ISOTC92 (火災安全) SC1 (火災の発生と発達) デルフト 2013 会議報告

一般財団法人 日本舶用品検定協会
吉田公一

ISO/TC92/SC1 は、ISO の中で火災安全に関する ISO 規格について横断的に審議しており、その ISO 規格は、IMO (国際海事機関) の FTP Code (火災試験方法コード) にも利用されている。吉田公一は 2005 年以來、ISO/TC92/SC1 の議長を務めてきた。

ISO/TC92/SC1 及びその作業部会会議が、オランダのデルフトで開催され、これに出席したので、以下に報告する。

会議期日：2013 年 11 月 6 日 (水) ~ 8 日 (金)

会議場所：オランダ規格協会 (NEN) 本部、デルフト、オランダ

参加国及び参加者：オーストラリア、フランス、ドイツ、日本、韓国、オランダ、スウェーデン、英国、米国の 9 カ国から、以下が参加した。

オーストラリア	Vince Dowling	スウェーデン	Petra Andersson
フランス	Eric Guillaume	スウェーデン	Per Thureson*
フランス	Jean-Remy Filtz	英国	Christine Lukas
ドイツ	Edith Antonatus	英国	Stephen Grayson
ドイツ	Anja Hofmann	英国	Sandra Pasantes
ドイツ	Martin Werrel*	英国	Sean Gregory*
日本	原田和典*	米国	Michael Hermesky
日本	吉岡英樹	米国	Mohammad Kahn
日本	安藤達夫	米国	Kuma Sumathipala
日本	早川哲哉	米国	Joe Urbas*
韓国	Kye-Wun Park	TC92 議長(Sweden)	Patrick van Hees
韓国	Yong-Ho Yoo	SC3 議長 (米)	Richard Gann
韓国	Jung-Min Choi	SC1 議長	吉田公一
オランダ	Roy Weghorst	SC1 事務局(BSI)	Bernd Borchert

* WG のみ出席

SC1 会議 (火災の発生と発達) 11 月 8 日 (金) 午前 11:00 ~ 午後 02:00

1. 開会

吉田議長が、NEN 及びオランダのメンバーに会議場提供の礼を述べ、会議を開会した。

2. 出席者自己紹介：出席者が自己紹介した。

3. 議題の採択：議題案 SC1N1361 を採択した。

4. ドラフト委員会の設置

SC1 事務局 B. Borchert、英国 Christine Lukas 及びフランス Jean-Remy Filtz を、決議を起草して仏語訳を作成するドラフト委員に指名した。

5. SC1 第 44 回ベルリン会議議事録の確認

議事録案 N1359 を確認した。特段の変更なし。

6. SC1 事務局の報告

6.1 作業項目

SC1 は、1372 の作業項目リストを確認した。

SC1 は、N1344 及び N1345 の新作業提案（IS お 5659-2 発煙性試験における FTIR による燃焼生成ガス測定方法）が可決したことを確認し、この作業を WG5 へ委託した。SC1 は WG5 コンベナーに対して、当該 WD を WG5 内で回章して次回会議までに意見を求め、次回会議で CD として出せるように作業を進めることを指示した。

6.2 SC1 の WG 体勢の変更

吉田議長は、前回会議で合意した WG の再編成を確認し、Task group が作成した各 WG の作業項目（scope）案（文書 N13xx）を紹介した。

以下の議論があった。

- ・このスコープは、TC92 のビジネスプランに掲示すべきである。SC1 はこれに合意した。
- ・FSE に関係する改正期方法を含めた新試験方法を作成する場合は、どの WG の所轄になるのか。この scope はガイダンスであり、「新作業提案については、このガイダンスに照らして、どの WG へ振り分けるかを SC1 が決める。」という議長説明に、SC1 は合意した。
- ・本件はさらに、次回会議でも議論することとなった。

6.3 規格の定期見直し

定期見直し投票の結果を踏まえ、SC1 は以下に合意した。

ISO5660-2：燃焼発熱試験（コーン・カロリーメータ）における発煙速度の測定

SC1 は、変更なく継続して発行することに合意した（決議）。なお、現在作業中の ISO 5660-1 と ISO 5660-2 を統合して新しい ISO 5660-1 とする作業が終了した時に、ISO 5660-2 は廃止することを確認した。

ISO 9239-2：床表面材の燃焼の広がり試験方法

SC1 は、変更なく継続して発行することに合意した（決議）。

ISO 13785-1：ファサードの中間規模火災試験方法

SC1 は、変更なく継続して発行することに合意した（決議）。なお、日本の改正コメントに関しては、改正案の内容を次回以降の WG7 会議へ提案するよう、SC1 は日本に対して要請した。

ISO 13785-2：ファサードの大型火災試験方法

SC1 は、変更なく継続して発行することに合意した（決議）。なお、日本及び韓国の改正コメントに関しては、改正案の内容を日韓で共同して作成して次回以降の WG7 会議へ提案するよう、SC1 は日本及び韓国に要請した。

6.4 SC1 議長に関する BSI の提案

2013 年末で、吉田の議長任期が満了するため、SC1 事務局の BSI は、文書 N1369 によ

り、次期議長として英国の Christine Lukas を推薦した。SC1 はこれに同意し、TC92 に対して、この提案を承認するよう求めることとなった（決議）。なお、TC92 では、この提案を文書にて投票に掛けることとなる旨、TC92 議長 P. van Hees が説明した。

SC1 はまた、現議長の吉田を SC1 の副議長に選出するよう TC92 へ提案することに合意した（決議）。

7. WG の報告

7.1 着火性 TG の報告

TG は会議をキャンセルしたため、報告はなかった。なお、作業項目の CD 期限が 2014 年 5 月であるため、次回 SC1 会議に際しては、TG 会議を開催して、作業を進めるよう、SC1 議長が TG リーダへ通告することとなった。

7.2 WG5（小型・ベンチスケール火災試験）の報告（N1380）

WG5 の報告に対し、SC1 は以下のように合意した。

- (1) WG5 は、DIS 5660-1（燃焼発熱試験：コーンカロリメータ）の投票結果を審議して FDIS text を作成した。SC1 は、これを FDIS として登録して FDIS 投票に出すことに合意した（決議）。FDIS text については、今次会議に出席した各国代表団長のレビューを 6 週間行い、確認することとなった（決議）。
- (2) WG5 は、DIS 17554（燃焼質量減少試験）の投票結果を審議して FDIS text を作成した。SC1 は、これを FDIS として登録して FDIS 投票に出すことに合意した（決議）。FDIS text については、今次会議に出席した各国代表団長のレビューを 6 週間行い、確認することとなった（決議）。
- (3) WG5 は、CD 5660-4（低発熱材料に関する燃焼発熱試験）の投票結果を審議して DIS text を作成した。SC1 は、これを DIS として登録して DIS 投票に出すことに合意した（決議）。なお、試験片の大きさの差異による燃焼発熱速度（特にピーク値）の差異に関して、東京システムバックが、調査結果を提供することとなった（ANNEX として加える予定）。
- (4) WG5 は、低酸素状態における燃焼発熱に関する予備作業（PWI）を行っている。日本からは、消防科学研究所及び東京システムバックが参加する。SC1 は、その進展に留意した。

7.3 WG7（中尾案規模・大規模火災試験）の報告（N1381）

WG7 の報告に対し、SC1 は以下のように合意した。

- (1) FDIS13784-1（サンドイッチパネルの中間規模火災試験）は FDIS 投票中。
- (2) ISO 9705-2（火災室試験：ガイダンス）は、改正のための議論を継続中。
- (3) DIS 9705-1（火災室試験）の text はすでに、ISO 中央事務局へ送付済みで、2014 年早々に DIS 投票が開始される予定であることに、SC1 は留意した。
- (4) DIS 16405（火災室試験における FTIR によるガス測定）の 2 回目の DIS text は、プロジェクト・リーダーとコンベナーが 12 月中に作成して、SC1 事務局へ送る予定であることを、SC1 は了承した。
- (5) ISO 12494（マットレスの燃焼試験）は、韓国が調査研究中であることを、SC1 は

承知した。

- (6) ISO 13785-1 (ファサードの中間規模火災試験) 及び ISO 13785-2 (ファサードの大型火災試験) は、定期見直しで継続発行を確認しつつ、改正へ向けて検討を開始する用意があることを、SC1 は承知した (6.3 参照)。

7.4 WG10 (火災試験用装置) の報告 (N1377)

WG10 の報告に対し、SC1 は以下を承知した。

- (1) DIS 14934-4 (熱流束計の使い方) については、2014 年 3 月 11 日を締め切りとして投票中であり、その結果は次回会議で検討する。

7.5 WG11 の報告 (試験結果の FSE : 火災安全技術への利用) (N1382)

WG11 の報告に対して、SC1 は以下のように合意した。

- (1) WG11 は DTS3814 (SC1 の火災試験の利用方法) の投票結果を審議し、TS (技術仕様書) の text を用意した。SC1 はこれを発行することに合意した (決議)。
- (2) ISO/TR 17252 (SC1 の火災試験結果の利用) は、FSE への利用へ向けて、改正の予備作業中であることを、SC1 は留意した。
- (3) WG11 が TC92SC4/WG9 と連携して、SC4 における「FSE への火災試験結果の利用」の検討に関与していることに、SC1 は留意した。

7.6 WG15 (たばこの火災発火への影響) の報告

前回 SC1 会議以来、WG15 会議は開催されなかったため、報告はなかった。なお、次回ルンド会議には、WG15 も参加する予定である。

8. リエゾン報告

SC1 は、以下のリエゾン担当者を確認した (決議)。

CEN/TC127/WG4 Michael Hermesky (米)

IEC/TC89 吉田公一

ISO/TC61/SC4 Stephen Grayson (英)

IMO 吉田公一

ISO/TC8 吉田公一

8.1 CEN/TC127/WG4

リエゾン担当者の Michael Hermesky が、CEN/TC127/WG4 の活動を報告した。

8.2 IEC/TC89 (電気電子製品の耐火性試験)

吉田は文書 N1379 に基づき、IEC/TC89 の活動を報告した。

IEC/TC89 が作成している IEC 60695 シリーズの規格において (特に試験方法の概要と適用に関するガイダンスにおいて) ISO/TC92/SC1 及び SC3 が作成した ISO 規格を引用している。

次回の IEC/TC89 の WG 会議は、2014 年 5 月初旬にイタリア・ポローニアで開催する。IEC/TC89 総会と WG は、2014 年 11 月 4 日から 7 日に、東京で開催する。

8.3 IMO

吉田は文書 N1378 に基づき、IMO はその技術委員会を再編成し、船舶の防火構造及び火

災試験方法に関しては船舶設計及び建造委員会（SDC）において、火災安全設備（火災感知及び消火設備等）は船舶システム及び装置委員会（SSE）において、検討することになったことを報告した。

8.4 ISO/TC61/SC4

ISO/TC61/SC4 議長の S. Grayson は、SC1 以来、ISO/TC61/SC4 の会議はない。次回会議は今年 9 月であるので、その結果を次回 SC1 会議に報告すると述べた。

8.5 ISO/TC8

吉田議長は、前回会議以降に ISO/TC8/SC1（船舶の防火及び救命設備）の開催はなかったことを報告した。

9. その他の事項：議論なし

10. 決議の採択

以下の決議を採択した。なお、決議番号は、事務局が後日調整する。

RESOLUTION 419

ISO/TC 92/SC 1 endorses BSI's nomination for Dr Christine Lukas as the new Chairperson of SC1 and invites ISO/TC 92 to approve this appointment.

RESOLUTION 420

ISO/TC 92/SC 1 agrees to extend the timeframe for ISO 5660-1 from a 36 months to a 48 months development time frame.

RESOLUTION 421

ISO/TC 92/SC 1 agrees to submit ISO 5660-4 to ISO CS for DIS ballot.

RESOLUTION 423

Noting the result of systematic review in document N 1367, ISO/TC 92/SC 1 agrees to confirm ISO 13785-1 without any change.

RESOLUTION 424

Noting the result of systematic review in document N 1368, ISO/TC 92/SC 1 agrees to confirm ISO 13785-2 without any change.

RESOLUTION 425

Noting the result of systematic review in document N 1370, ISO/TC 92/SC 1 agrees to confirm ISO 5660-2 without any change.

RESOLUTION 426

Noting the result of systematic review in document N 1371, ISO/TC 92/SC 1 agrees to confirm ISO 9239-2 without any change.

RESOLUTION 427

Noting the result of DTS ballot and the recommendation from WG 1, ISO/TC 92/SC 1 agrees to publish ISO TS 3814 as a Technical Specification with the title of "*Standard tests for measuring*

reaction to fire of products and materials – Their development and application ".

RESOLUTION 428

ISO/TC 92/SC 1 re-confirms/appoints the following liaison officers:

CEN/TC 127/WG 4 – Mike Hermesky

IEC/TC 89 – Koichi Yoshida

IMO – Koichi Yoshida

ISO/TC 61/SC 4 – Stephen Grayson

ISO/TC 8 – Koichi Yoshida

RESOLUTION 429

ISO/TC 92/SC 1 agrees to allocate ISO/AWI 19021 to WG 5 with a view to initiate a CD ballot after the next meeting of ISO/TC 92/SC 1 in April 2014.

RESOLUTION 430

ISO/TC 92/SC 1 offers its strong appreciation to the outgoing Chairman Koichi Yoshida for the excellent work he has done during his term.

RESOLUTON 431

ISO/TC 92/SC 1 nominated Koichi Yoshida as a Vice Chairman to ISO/TC 92/SC 1, replacing Patrick van Hees, and invites ISO/TC 92 to approve this nomination.

RESOLUTION 432

ISO/TC 92/SC 1 agrees to submit ISO 5660-1 to ISO CS for FDIS ballot, subject to approval by the heads of delegations attending this Delft meeting. The project leader agrees to send the FDIS text to the Secretary by the end of December 2013 and the Secretary will seek approval with a 6 weeks email-reply time from the heads of delegation who attended this meeting, that the comments on the DIS ballot have been adequately addressed.

RESOLUTION 433

ISO/TC 92/SC 1 requests its Secretary to change the title on the ISO database for ISO TS 3814 to read 'Standard tests for measuring reaction to fire of products and materials – Their development and application'

RESOLUTION 434

ISO/TC 92/SC 1 agrees to extend the timeframe for ISO 17554 from a 36 months to a 48 months development time frame.

RESOLUTION 435

ISO/TC 92/SC 1 agrees to submit ISO 17554 to ISO CS for FDIS ballot, subject to approval by the heads of delegations attending this Delft meeting. The project leader agrees to send the FDIS text to the Secretary by the end of December 2013 and the Secretary will seek approval with a 6 weeks email-reply time from the heads of delegation who attended this meeting, that the comments on the DIS ballot have been adequately addressed.

11. 次回会議

次回会議は、TC92 総会とともに、2014 年 4 月 7 日から 11 日の期間に、スウェーデンのルンドで開催する。会議の詳細日程は、TC92 議長が各 SC 議長と相談して、後日通知する。

次々回会議は、2014 年 10 月 6 日から 10 日の間に開催する。場所及び会議の詳細日程は、次回ルンド会議で決定する。

12. 閉会

吉田議長が、NEN 及びオランダのメンバーに会議場提供の礼を述べ、さらに会議参加者の貢献に礼を述べ、会議を閉会した。



ISO/TC92/SC1 会議の様子



日本代表团



SC1 吉田議長及び Borchert 事務局